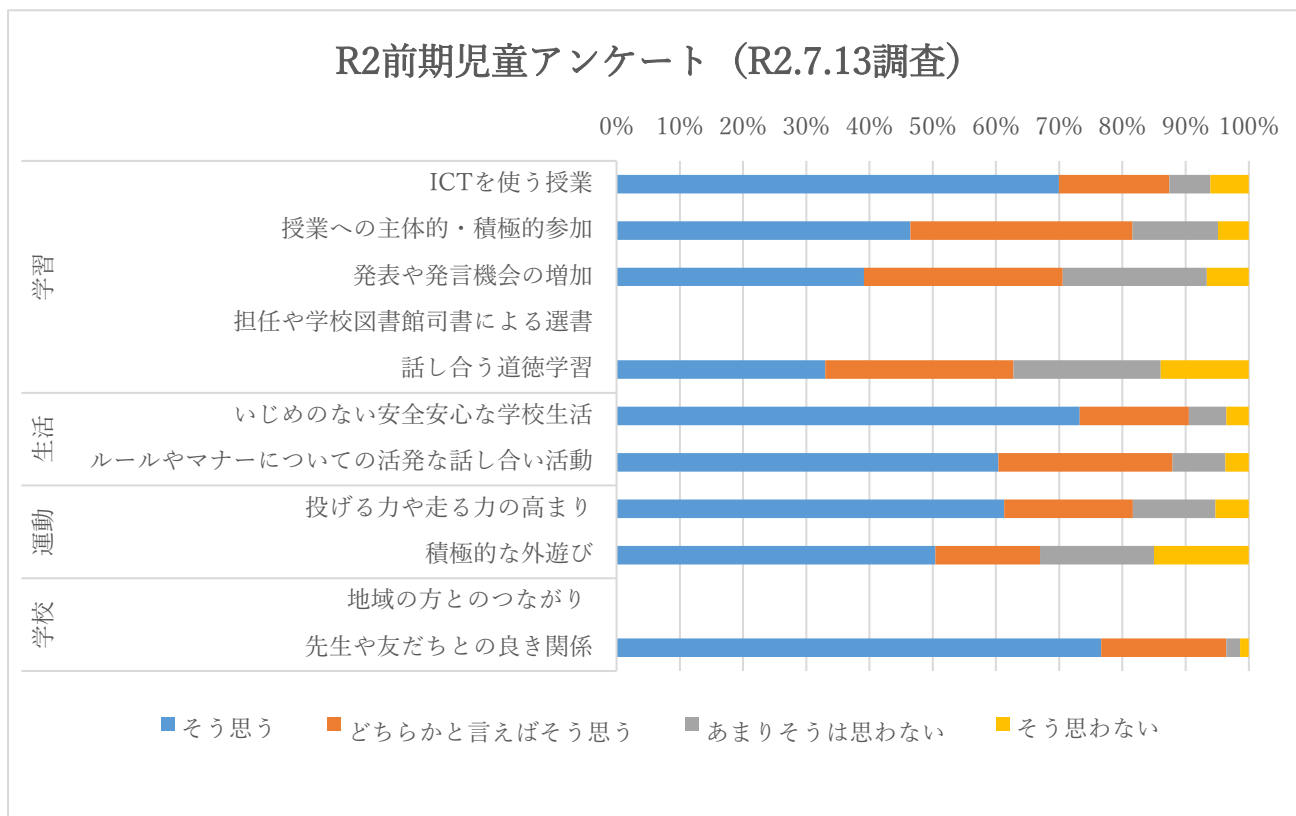


# <令和2年度 前期 児童アンケート>



## 1、学習

### (1)情報教育機器を使う授業

「パソコンを使った勉強をしましたか」という質問に「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は87.4%でした。昨年は「教員が授業でICTを活用する」というのが重点課題でしたが、本年度は「子どもが授業でICTを活用する」という課題です。2019年12月に文部科学省はGIGAスクール構想(児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、後世に個別最適化された創造性を育む教育を全国の学校現場持続的に実現させる構想)を打ち出しました。新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言を受け、この構想を早期実現するための予算的支援が行政から行われており、通信システムが揃わない家庭に対しては、市の教育委員会が貸与しました。4~5月は動画で家庭学習を進め、テレビ会議システムを使って学級ごとに担任の先生と話をしました。また、毎週火曜日には全学年がeライブラリーの家庭学習課題を発信しています。これら、ハード面やソフト面でICT環境が整備されたことが、87.4%という数字に出ていると思われます。

しかしながら、6月から学校での学習が再開されてからは、教室で学習時間中に子どもたちがICT機器を操作する機会はあまりありませんでした。2学期以降、パソコン教室を使った学習等、授業中に児童がICT機器を操作して、自分の課題を探究する授業を行う必要があります。

### (2)授業への主体的、積極的参加

「授業中に自分の意見を書いてまとめましたか」という質問に肯定的な回答をしたのは、81.6%です。2020年から実施する新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を目指すとあります。本校でも今年の指導の重点として、「主体的・対話的で深い学びの実現を図りながら、思考力・判断力・表現力を育む」を掲げました。

主体的とは学習態度のことを指しているのではありません。認知的な主体性について、つまり、学習活動において自分事として学習に臨み、自分自身の意見を持つ、ということです。特に、本校児童は書く力に課題があることが、昨年までの全国学力・学習状況調査で分かっていますので、自分の考えを書いてまとめることに重きを置きました。授業ではノートやワークシートに自分の考えや思いをまとめる時間を設け、意見を整理してから話し合い活動に入るようにしています。2学期以降も、教員は、「授業中、児童一人一人が意見や考えを持った状態をどの場面でどう作るか」について、教材研究を重ねていかなければならないと思います。

### (3)授業での発表や発言の増加

「自分の意見を発表する時間がたくさんありましたか。」という質問に「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えたのは70.6%です。クラスメートと話し合いながら学習することが、「対話的な学習」の第一歩と考えています。4月にクラス替えがありました。一斉登校になって学級全員が揃ったのは6月半ばからでした。従って、この調査をするまでのわずかひと月で、新しい仲間と打ち解け、良好な人間関係が育まれたのか心配でしたが、この結果を見ますと、話し合い活動が成立するような友達関係が育っているように思います。

しかし、新型コロナウイルス感染症対策で、授業中に子どもたち同士が話し合う場を設定することが非常に困難で、対面での会話や2mのソーシャルディスタンスをとらない話し合いはできませんでした。よってこの結果はある意味、仕方がないようにも思います。

発表や発言は、子どもたちにとって「授業に参加できた」という証です。特に、明確な答えのない質問や、今までに学習した事を活かして結果を予想する質問に対して、自分の考えを発表できれば、子どもたち自身は、より満足した気持ちになると思いますので、教員は教材研究に努めたいと思います。

### (4)担任や学校図書館司書による選書

登校期間が短かったことや、1学期中は朝の読書タイムが学習タイムになり、学校での読書時間が短くなったことから、この項目についての前期児童アンケート調査は実施していません。

### (5)話し合う道徳学習

「道徳の勉強では話し合うことが多かったですか」という質問に、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えたのは62.8%です。本校では昨年度に引き続き、教職員研修の教科を道徳科としました。道徳の時間は、答えが一つではない道徳的な課題を、児童一人一人が自分の問題ととらえ、向き合う時間です。そこで、「読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導」「児童に、望ましいと思われることや分かり切ったことを言わせたり書かせたりする授業」にならないよう、注意しています。

逆に言うと、37.2%の児童が否定的な回答をしています。これは、新型コロナウイルス感染症対策で、授業中の発言は前を向いて行い、他の児童の発言も、前を向いて聞く、という制約がありましたので、どうしても「話し合う」という意識が生まれにくい状況だったからかもしれません。

担任は日ごろから、子どもたちが温かい人間関係を構築するよう見守りながら、道徳科の授業中に、多様な考え方や感じ方に会えるよう、授業を勧めなければならないと思っています。

## 2、生活

### (1)いじめのない安心安全な学校生活

「いじめられず安心して学校生活を送ることができましたか」の質問に対し、90.5%の児童が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答しました。しかし、1割ほどの児童は、否定的な回答をしています。つまり、10人に1人は「いじめられた」「安心して学校に来ることができない」という思いを持っていることとなります。本校では「いじめを許さない学校づくり」として、学級担任としての役割を共通理解したり、相談機能を充実さ

せるために教職員が緊密な情報交換をしたりといった取り組みを行っています。いじめアンケートも毎学期とり、気になる児童には聞き取り調査をしています。

いじめを未然に防ぐため、本人や保護者からの訴えに迅速に対応すること、つまり、分かったらその日のうちに対応することが、いじめられて悲しくつらい思いをする子どもたちを作らないことにつながると思っています。今後も、保護者や地域住民の方から頂く声があれば、教職員で共有し、対応にあたります。

## (2)ルールやマナーについての活発な話し合い活動

「学校の生活が良くなり、楽しく過ごせるよう、ルールやマナーについて学級で話し合いましたか」の問いに、肯定的な回答をしたのは87.9%です。新型コロナウイルス感染症対策で、全校児童が絶対に守らなければならない規則やルールも増えました。マスクの着用、手洗いをする時間、給食の配膳や食事の仕方など、感染対策はすべての児童がきちんと行えてこそ、効力があります。

マナーについては「しなければならない」ではなく「するとよい」ものです。挨拶もその一つですが、6月末に校区の方から「生駒小学校の子どもたちに朝の挨拶をしても、見て見ぬふり、聞こえていて聞こえていないふりをして無視する。」とお叱りの電話をいただいたことを学校だよりでお知らせしました。それ以後、子どもたちの態度は、少しずつですが、変わってきているように思います。マナーと言うのは、社会で通用するかどうかの尺度です。しかしながら、社会経験が少ない子どもたちは、知らないことも多く、ルールやマナーについての話し合いで、初めて「そうだったのか」と気づくこともたくさんあります。そういった気づきが実生活で生かされるよう、2学期からも学級等での話し合い活動を進めます。

## 3、運動

### (1)投げる力や走る力の高まり

「投げる力や走る力がついたと思いますか。」という問いに「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答したのは81.7%です。今年度は体力テストの実施時期が臨時休校と重なり、投能力を測定するソフトボール投げや持久力を測定できるシャトルランを行っていません。よって、正確に投の能力や走の能力が高まったかどうかは分かりません。しかし、臨時休校が3か月も続き、ステイ・ホームで、家で自粛生活を送っていた子どもたちは、体格は良くなったけれども、体力についてはおそらく低下しているのではないかと危惧しています。

通常授業になってからも、体育授業には大きな制限がありました。3密が避けられないためにできないゲーム運動がありますし、器具を共用するマット運動や跳び箱運動は7月初めまでできませんでした。これからもこういった状況は続きますので、遊びの時間にドッジボールや鬼遊びで投能力や走能力を高める運動の補充をしなければならないと考えています。

### (2)積極的な外遊び

「朝や20分休み、昼休みは運動場に出て元気に遊んでいますか。」の質問に、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答したのは、67.0%しかありません。昨年度の後期児童アンケートでも65.4%しかありませんでした。感染症対策で、登校した日が少なく、また、外遊びも積極的ではないとなると、体力の低下は否めません。マスク着用で、熱中症が心配されてはいますが、息苦しい時はマスクを外してもよいことになっていますので、保護者の皆様からも外遊びを推奨する旨の呼びかけをしていただきたく思います。

## 4、学校

### (1)地域の方とのつながり

「地域の方に教えてもらったり、共に活動したりして、思い出に残る学習ができましたか。」の質問ですが、新型コロナウイルス感染症対策で、地域の方と交流する行事が、軒並み取りやめになりました。そのため、この

設問につきましては前期児童アンケートから削除しています。

## (2)先生や友だちとの良き関係

「先生や友達と楽しく過ごすことができましたか。」という問いに、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答したのは96.4%です。非常に高い数値で、子どもたちの大多数が充実した学校生活を過ごしていることが分かります。

1年生は学校生活に慣れて、給食や掃除の当番活動もできるようになりました。2年生以上はクラス替えで新しい学級、新しい友達、新しい先生に思いのほか早く慣れたように思います。子どもたちにとって学校生活の中心は学級です。学級はすべての子どもが自分の良さを発揮することができ、それが友達から認められる場でなければいけません。そのような好ましい関係を築いていくためには、一人一人が活躍できる集団での活動、特に一緒に汗を流すことができる掃除時間や給食配膳時の活動に力を入れなければならないと感じています。